

# 事務事業及び予算の執行実績

(令和4年度分「一部令和3年度分を含む」)

静岡県立浜松聴覚特別支援学校

# 目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	19
学校施設の概要	20
在籍生徒調	22
入学志願者及び入学者数調	23
卒業生の動向調	24
生徒の状況	25
現金出納調	27
預金調	27
郵券等受払調	28
材料品受払簿	29
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	30
委託料に関する調	31
負担金支出調	33
建築工事調	35
公有財産調	37
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	38
行政財産貸付・使用許可調	39
主要備品調	40
職員調	41
職員の年齢調	43
健康管理	44

## 事務事業の概要

### 1 概況

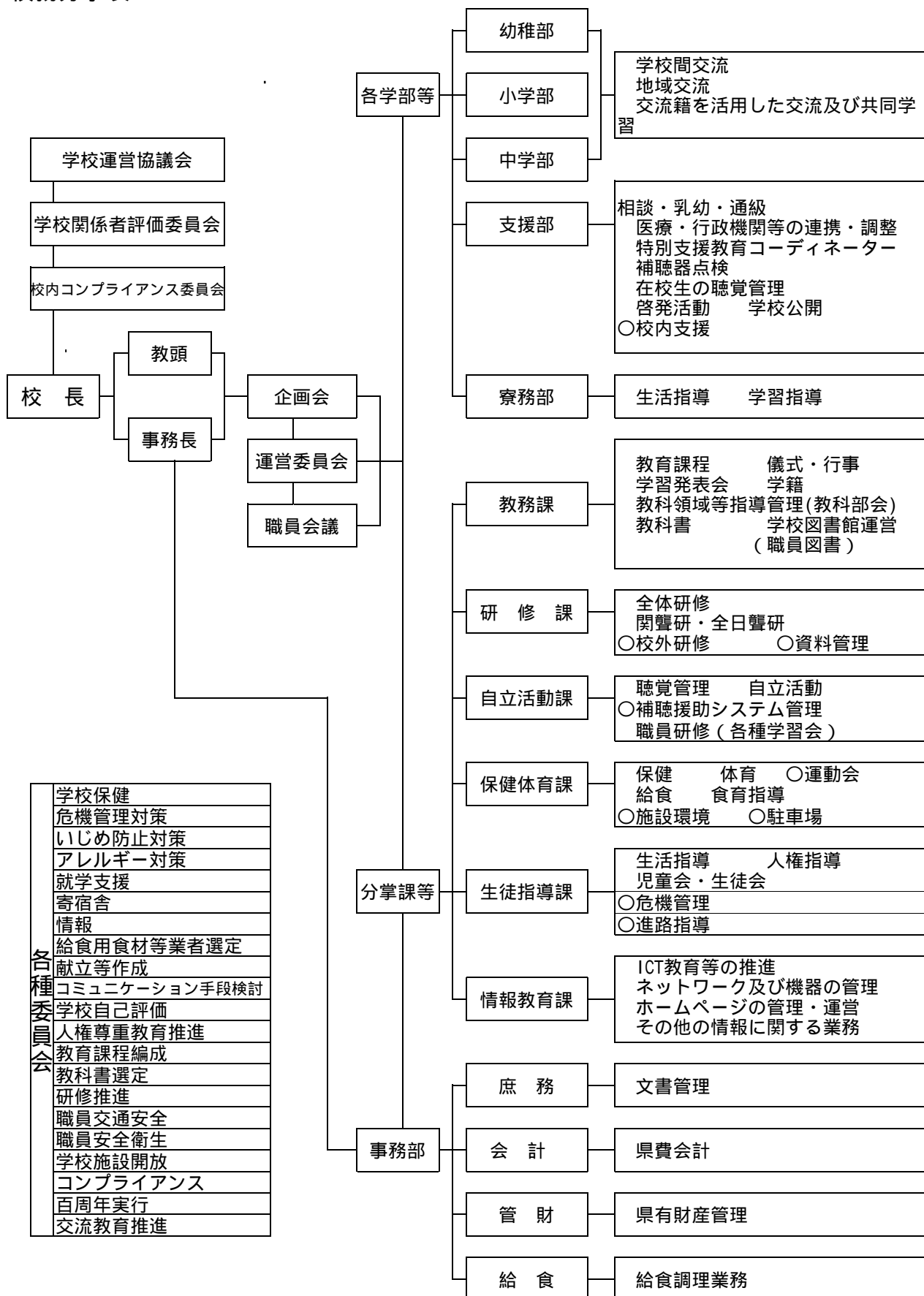
#### (1) 学校の沿革

大正12年	4月1日	泉亀太郎・湯浅輝夫・浜松市鍼灸組合相謀り設立 浜松市鴨江町の私立浜松盲学校内に浜松聾啞学校を併設
昭和20年	6月18日	戦災により校舎その他一切を焼失
	20年 7月5日	財団法人浜松聾啞学校として認可
	21年 5月10日	浜松市追分町の国立浜松病院を借用して授業
	23年 4月1日	財団法人浜松聾啞学校が静岡県に移管され、静岡県立浜松聾 学校となる。義務教育制実施 児童生徒51人、5学級編制
	23年 10月30日	借用校舎並びに用地買収
	25年 12月28日	浜松市幸町に校地約 6,000坪を買収
	26年 8月30日	校舎並びに寄宿舍工事完了に伴い移転
	27年 3月3日	新築落成式
	37年 4月1日	幼稚部5歳学級新設
	41年 4月1日	幼稚部4歳学級新設
	43年 3月11日	体育館工事完了
	44年 4月1日	幼稚部3歳学級新設
	45年 3月10日	新校舎第一期工事竣工
	46年 3月31日	新校舎第二期工事竣工
	46年 4月1日	幼稚部2歳学級新設、中学部に重複学級新設 高等部学年進行により沼津聾学校に統合 (高等部1年沼津聾学校に進学)
	47年 4月1日	小学部に重複学級新設
	48年 3月31日	静岡県立聾学校学則一部改正(高等部沼津聾学校に完全統合) 4月1日施行
	58年 3月15日	給食棟竣工(464.05m <sup>2</sup> )
	59年 5月31日	寄宿舍竣工(408.84m <sup>2</sup> )
	60年 12月20日	プール新設工事完了
	63年 2月21日	校歌制定(40周年記念)
	63年 10月24日	心身障害児交流活動地域推進研究指定発表 (昭和62・63年度文部省、県教委指定)
	63年 12月5日	公共下水道接続工事完了
平成元年	8月31日	木の教室(視聴覚室・図書室)工事完了
	元年 10月24日	寄宿舍スプリンクラー工事完了
	2年 5月12日	静岡県中学校体育連盟加盟
	2年 8月25日	体育館進入路建設工事完了
	4年 2月15日	体育館集団補聴設備設置工事完了
平成5年	9月30日	職員室他冷暖房設備設置工事完了

6年	8月17日	門扉（東門・西門）取替工事完了
7年	8月31日	防火シャッター他改修工事完了
8年	3月25日	注意表示灯等設置工事完了
9年	3月25日	電話交換設備改修工事完了
10年	3月30日	フィールドアスレチック設置
平成11年	1月26日	本館（北校舎）耐震補強・防音工事竣工
11年	1月26日	防音工事により木の教室（図書室）解体撤去
12年	1月31日	第二校舎（南校舎）耐震補強・防音工事竣工
12年	1月31日	防音工事により木の教室（視聴覚室）撤去
12年	12月5日	北東法面擁壁設置工事完了
16年	2月27日	体育館改修(天井落下防止)工事完成
17年	4月1日	通級指導教室開設
18年	2月3日	体育館耐震補強建築工事完了
20年	4月1日	校名を静岡県立浜松聴覚特別支援学校と改称
21年	9月24日	受水槽改修工事竣工
26年	3月31日	災害用仮設トイレ設置工事竣工
27年	3月31日	太陽光パネル設置工事竣工
令和2年	8月28日	東棟プレイルーム空調設備設置工事完了
3年	1月22日	本館及び第二校舎防衛施設周辺における防音工事補助事業により空調設備更新工事完了

(2) 組織図

校務分掌表



## 2 目指す学校像

### (1) 【令和3年度】

#### 教育目標

言語力を向上させ、自分のよさや可能性を最大限に伸ばし、「共生・共育」社会を実現する担い手として自ら考え、判断、実践できる『たくましく心豊かな幼児児童生徒』を育てる。

- ア 聴覚障害の特性に対応した指導により、乳幼児・幼稚部では豊かな生活言語の獲得、小中学部では学習言語と学年相応の学力の獲得を目指す学校。
- イ 聴覚障害のある自分に自信と誇りをもたせ、子どもたちの「夢の実現」をサポートする学校。
- ウ 地域で聴覚障害のある子を育てる保護者や地域の幼稚園保育園、小中高等学校で学ぶ子や先生方から頼りにされる学校。

#### 目指す子ども像

- 人とのかかわりを楽しみ、思いやりがある子
- 進んで表現し、話をする子
- 進んで遊び、学習する子
- 進んで健康に心がけ、からだを鍛える子

### (2) 【令和4年度】

#### 教育目標

言語力を向上させ、自分のよさや可能性を最大限に伸ばし、「共生・共育」社会を実現する担い手として自ら考え、判断、実践できる『たくましく心豊かな幼児児童生徒』を育てる。

- ア 聴覚障害の特性に対応した指導により、乳幼児・幼稚部では豊かな生活言語の獲得、小中学部では学習言語と学年相応の学力の獲得を目指す学校
- イ 聴覚障害のある自分に自信と誇りをもたせ、子どもたちの「夢の実現」をサポートする学校
- ウ 地域で聴覚障害のある子を育てる保護者や地域の幼稚園保育園、小中高等学校で学ぶ子や先生方から頼りにされる学校

#### 目指す子ども像

- 人とのかかわりを楽しみ、思いやりがある子
- 進んで表現し、話をする子
- 進んで遊び、学習する子
- 進んで健康に心がけ、からだを鍛える子

## 3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

### (1) 令和3年度の取組目標への評価及び成果と課題

チーム対応力を高め、安全・安心で効率的、効果的な学校運営を行う。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果(○)と課題( )
ア	安心・安全な学校生活を送るための環境及び体制づくりの推進	緊急時に対応できる教職員の対応力の向上と学校組織の構築	職員評価 AB 100% 実施方法の変更をしたが全研修を実施	A	○コロナ禍ではあったが、できるだけ早い時期に、実施方法を検討してすべての研修を実施することができた。毎年の研修や定期的な確認の必要性を職員は感じている。

					緊急時の動きに即したマニュアルの見直しと周知、訓練の実施。
		災害発生時に自らの命を守ることができる児童生徒の育成	職員評価 AB 100%	A	目的を押さえた事前・訓練・事後学習が各学部や学校全体で実施することができた。 幼児・児童・生徒が安全への意識をより高め、自分で考えて行動できるよう、状況に応じた訓練や学習が繰り返し行っていくことが必要。
		自他を大切に、相手を思いやる気持ちの育成	職員評価 AB 100%	A	○実態に応じた個、集団への人権教育を学部内で共通理解をした上で行うことができた。 人権感覚振り返りを教員が定期的に行うことで、自分を振り返る機会となった。 道徳教育指導表作成の目的と活用方法の共通理解を図る。
		学校経営予算の計画的効果的な運用	職員評価 AB 97.4%	A	○7月と10月に予算執行状況を掲載し、早期の予算確定及び執行の呼び掛けをし、適切な執行ができた。 修繕費など、必要な経費等ができたとき、素早く職員間で相談、連携をし、対応できた。
イ	交通事故、不祥事根絶に向けた校内体制づくり	交通事故・不祥事根絶に向けた職員の意識向上	職員評価 AB 97.4%	A	○月一回程度の情報提供や呼び掛けにより、職員が意識を高く持ち、大きな交通事故や不祥事が起きなかった。 多様な考えを受け止めながら対話を行う職員集団づくり。

聴覚障害教育の専門性を発揮し言葉やコミュニケーションを大切にした教育を実践する。

ア	「きこえにくさ」とそれに伴う特性の理解と、対応力、コミュニケーション力の向上	きこえにくさに配慮した指導力の向上	職員評価 AB 94.7%	A	○他者からの客観的なチェックとセルフチェックを行うことにより、授業や子どもとのかかわり方を見直す機会を作ることができた。 コロナ禍により集会や授業の様子が以前と変わることがあり、情報保障が足りない場面が見られた。子どもたちが分かりやすくなるための配慮を考えていきたい。
		学習会で学んだ知識を活用した指導力の向上	職員評価 AB 97.3%		
		「今日の手話」・手話学習会を通じた	職員評価 AB 92.3%	A	○積み重ねにより、手話表現が増えた、聞き取りの勉強になったという意見が多くあった。手話力に

		手話力向上			応じた学習会の回数や方法の工夫を検討し、さらなる手話力の向上を図りたい。
イ	校内における専門性の向上と継承	教職員一人ひとりのキャリアに応じた専門性の向上と継承	職員評価 AB 89.5%	B	<p>年度当初に学級経営、聴覚障害教育、教科指導、進路指導などについて、メンティー・メンターを選出して専門性の継承を意識した学部運営を行った。自然な形で教え合い、学び合いができてきた。(中)</p> <p>授業づくりを共に行うなかで、指導方法などを知識技能のある教員から学ぶことができた。困ったことなどが相談しやすくなった。(小)</p> <p>各職員の強みを共有する場・時間を設定し、各々の強みを活かした児童生徒への指導を行うことができた。(舎)</p> <p>内容によっては、学部を超えた体制づくり。</p>

言語拡充と基礎学力の向上を図り、生活力を豊かにする授業を実施する。

ア	発達段階に応じた言語力の獲得と基礎学力の定着と生活力の向上を図る授業実践	分かりやすい授業を目指した授業力の向上	職員評価 AB 97.2%	A	<p>1人1授業研究、学部研修を継続してきたことで、互いに学び合いながら、教員の授業力の向上を図ることができた。</p> <p>G I G Aスクール構想や視覚的支援に向けたICTを活用した授業力向上。</p> <p>設定された研修以外での自主的な授業参観への意識の向上。</p>	
		保護者が子どもによりよくなる力の向上	保護者アンケート 「乳幼児教室により、子どものかかわり方の向上を感じた」と答える保護者 100%	A	<p>遊びや環境設定を通して、ことばだけでなく乳幼児の全般的な発達を促すことができた。</p> <p>計画していた集団学習や両親教室が行えず、継続した支援が難しい面もあった。</p> <p>コロナ禍により、ZOOMでの実施を試みた。乳幼児の参加は難しさがあるが、継続して保護者の支援を行う一つの方法だとも感じる。</p>	
		言語の基礎となるあそびの充実	職員評価 AB 100%	保護者アンケート AB 100%	A	<p>子どもが遊びこめる環境設定の充実を図り、あそびを通して自分の思いを伝えようとする気持ちが育ってきた。</p> <p>実態に応じたコミュニケーション力向上の支援。</p>
		基礎学力の定着を支える言語拡充	職員評価 AB 100%	保護者アンケート		○発達や実態に応じて、日記指導、学級掲示、朝(帰り)の会での発表や話し合い活動など様々な場を設定し、言語拡充の充実を図



			AB 100%	A	<p>ることができた。</p> <p>各教科の学習や日常生活の中で、理由を問う言葉掛けや追加の発問を自然と行う支援が根付いている。</p> <p>思考を深める授業づくり。</p>
		日々の授業実践における生徒の基礎基本の定着と深い学びが展開できる授業力の向上	<p>職員評価 AB 93%</p> <p>保護者アンケート AB 92%</p>	B	<p>○学部研修を深めることで、「思考と対話」を深める問題解決型学習が少しずつ進めることができてきた。</p> <p>身に付けたい力をしっかり押さえ上での指導内容の精選。個人差に応じて、生徒の学びが深まるような学習の工夫が必要である。</p> <p>定着するための支援。</p>
イ	読書活動を通じた言語力向上の基礎づくり	読書活動の推進による生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上	職員評価 AB 100%	A	<p>図書委員会による本の紹介や来館スタンプカードなど児童生徒自身が企画した働き掛けが読書意欲の向上に効果的だった。</p> <p>外部団体の読み聞かせや地域の図書館からの移動図書館なども読書に親しむ機会となった。</p> <p>中学部では、朝読書の時間を設け、読書する習慣が定着している。</p>
ウ	多様化する児童生徒の実態を的確に捉えた、学習指導や支援の充実と教育課程の見直し	個別の指導計画を活用した指導の充実	<p>職員評価 AB 100%</p> <p>保護者アンケート AB 100%</p>	A	<p>年間作成計画に沿った新書式での作成ができた。</p> <p>定期的に個別の指導計画検討会を実施し、児童生徒の目標、指導内容等について教員間で検討、確認した。</p> <p>適切な実態把握、目標設定に基づいた指導計画作成、活用する力の向上。</p>
		情報機器を有効活用した指導の充実	職員評価 AB 89.2%	B	<p>○タブレットや電子黒板などの活用により、児童生徒の学習の充実を感じる職員が多く、積極的に活用し始めた。</p> <p>○オンラインでの学習の実践も増えてきた。</p> <p>環境面での整備を進めていきたい。</p> <p>情報機器活用に対する抵抗感のある教員に対して、研修や実践例紹介などを行っていく。</p>

一人ひとりの夢の実現と社会自立を目指し、キャリア教育を推進する。

ア	寄宿舎生活を通じて行う、個に応じた自立支援	日常生活の自立に向けた児童生徒個々の生活力の向上	職員評価 AB 94.1%	B	<p>舎生との繰り返しの対話を通じて、舎生自身が目標、取組方法、評価を行う力が身に付いてきた。</p> <p>季節の行事など舎生の意見も取り入れながら計画を立てることで積極的に参加する生徒もでてきた。</p>
---	-----------------------	--------------------------	------------------	---	--

					<p>舎生の担任教諭との情報交換を充実させ、実態把握、目標設定、支援方法などを共通理解のもと行っていきたい。</p>
イ	自己実現に向けた自立活動と進路指導の実践	保護者と共に行う自立活動の充実	<p>職員評価 AB 92%</p> <p>保護者アンケート AB 100%</p>	A	<p>○保護者が疑問に思ったことや活動の内容の説明とその都度丁寧に行うことができたことで、ねらいや支援方法など共通理解しながら効果的に行うことができた。</p> <p>年少児の保護者に対する障害認識についての指導は、今後も丁寧に行っていくことが大切である。</p>
		自己の将来や夢につながる指導の系統性と内容の充実	<p>職員評価 AB 100%</p> <p>保護者アンケート AB 100%</p>	A	<p>○先輩の話や聞き取り、校外での様々な人と関わったりする活動は、社会や仕事に興味を持つ機会となった。</p> <p>○持ち物の準備、集団活動の際の約束、公共交通機関の利用等、将来の社会生活に必要な要素を学習することができた。</p> <p>キャリア教育の目的に合った校外学習の計画、指導を見直していくことが必要。</p> <p>将来に向けて身に付けたい力をつけるためのカリキュラムも検討していきたい。</p>
		日々の生活や自立活動で、障害認識を深め、適切な進路を考え選ぶ力の向上	<p>職員評価 AB 100%</p> <p>保護者アンケート AB 100%</p>	A	<p>○卒業生の話や進路学習を通して自分の進路について関心を持ち、主体的に学習や生活に取り組もうとする生徒が増えてきた。</p> <p>話し方や応答の仕方、公正さ、あいさつ、整理整頓などの定着に個人差はあるが、共通理解のもと指導を継続していきたい。</p>
		日常生活で補聴援助システムを効果的に活用できる技能の向上	<p>職員評価 AB 100%</p>	A	<p>○聞こえについて児童だけではなく、保護者も理解が深まり、在籍校へ伝えることができるようになってきた。</p> <p>○オンラインによるペアや集団学習実施による新しい学習形態の良さもあった。</p> <p>保護者や在籍校への働きかけを工夫し、支援の浸透を図っていきたい。</p>
		教職員一人ひとりの進路指導力の向上	<p>職員評価 AB 88.9%</p>	B	<p>○校内支援会議での検討内容をもとに担任が児童生徒や保護者に対して丁寧に指導していくことができるようになってきた。</p> <p>12年間を通じた本校についての進路指導の検討と手引きの作成を行っていく必要がある。</p>

自己理解を深め、地域社会の中で生きる力を養うための共生教育を実践する。

ア	地域で生きるための力を養う共生教育の実践	校外保育の充実	職員評価 AB 100%	A	○回数は計画より少なくなったが、校外散歩やあそびを実施することができた。目的をおさえて実施することで充実が図れた。
		個々の自己理解力、対応力の向上	職員評価 AB 100%	A	○交流を通して、普段と違う環境の中から、困ったり解決しようとしたりする経験が自己理解向上に繋がった。今後も地域の中での経験を重ねていきたい。
		地域における行事や同年代との関りを主体的に深めることができる生徒の育成。	職員評価 AB 100%	A	○コロナ禍で制限のある中、交流籍校との交流や職場見学・体験などが実施できた。体験の中から、主体的に考え行動しようとする姿が見られた。 部活動の交流が実施できなかった。意欲の向上など大きな効果が期待できるので、対策をとりながら実施を検討していきたい。

聴覚障害に関する地域のセンター的機能と校内支援の充実を推進する。

ア	本校教育活動の積極的な発信	本校に通う幼児児童生徒の実態や教育活動についての理解啓発	職員評価 AB 100%	A	○アンケート結果から、本校にかかわる乳幼児を含めて、理解が深まっている様子が見えた。 地域の方に見ていただくことが難しいのが残念だが、方法などを工夫していきたい。
イ	地域におけるセンター的役割と校内支援体制の充実	校内及び地域における教育相談力・支援力の向上	職員評価 AB 100% 在籍校訪問全員実施 校内支援会議3回実施	A	○難聴児担当者研修会では、聞こえにくさの体験や難聴児の困り感の実感ができるよい研修会であった。 ○校内支援会議では幼稚部から中学部までの幼児児童生徒についての検討を行い、関連機関と連携を深めることができた。

(2) 令和4年度の取組目標・達成方法・成果目標

チーム対応力を高め安全・安心な環境を整備し、効率的、効果的な学校運営を行う。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心・安全な学校生活を送るための環境及び体制づくりの推進	緊急時に対応できる教職員の対応力の向上と学校組織の構築ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%	A	AED や嘔吐物処理の研修を通して、緊急時の対応方法を確認できた。食に関する指導を学校全体で進めることができた。 臨機応変に対応できるように、様々な状況を想定した研修を行いたい。
		災害や事故発生時に自らの命を守ることや事故が起きないように気をつけることができる児童生徒の育成ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%		A

		道徳や日常的な指導を通して、自他を大切にし相手を思いやる気持ちの育成を図ることができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 97.2%	保護者評価 AB89%	A	道徳教育指導表を主軸に道徳教育の推進が図れた。 道徳の授業の充実だけでなく、道徳の根幹である、社会通念、モラルの指導の強化も図っていきたい。
		学校経営予算の効率的な執行による修繕箇所の早期着手ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 94.3%	保護者評価 AB89%	A	施設の老朽化により、限られた予算の中での対応は難しいところもあったが、幼児児童生徒の安全に関わる箇所は早期修繕できた。
イ	交通事故、不祥事根絶に向けた校内体制づくり	交通事故・不祥事根絶に向けた職員の意識向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%		A	交通事故0件、不祥事0件 個人情報への扱いについての意識向上、校内規定の共通理解と遵守をさらに図りたい。

聴覚障害教育の専門性を発揮し、言葉やコミュニケーションを大切にした教育を実践し言語拡充と基礎学力の向上を図る。

ア	「きこえにくさ」とそれに伴う特性の理解と、コミュニケーション力、対応力、指導力の向上	聴覚障害教育における専門性を発揮した指導力の向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB97%	A	学習会を企画運営し、おおむね良い評価を得られた。 一部の学習会の実施方法を検討し、より指導に活かせる学習会を考えていく。
イ	発達段階に応じた言語力の獲得と基礎学力の定着を図る授業実践	授業・指導を通して担当する幼児児童生徒の成長が見られたと答える教職員 100%	職員評価 AB 97%		A	授業公開の機会を設定し、一人一人が個々の授業の目的を明確にして授業改善を図れた。来年度は学習会を設定し、授業づくりについて学ぶ場となるようにしていく。
		保護者が子どもとよりよく関わることができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%		A	両親教室を通じて関わり方だけではなく生活面についても伝えたことで、保護者の意識が向上していた。 校内の職員以外の協力も仰ぎ、両親教室の充実を図りたい。
		言語の基礎となるあそびの充実ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB100%	A	あそびの時間を確保し、ダンボールあそびやうんどうあそび等集団で活動することにより自分の思いを言葉で伝える基礎が育ってきた。 友達と伝え合える言葉の力を伸ばしていきたい。

		基礎学力の定着を支える言語拡充ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 88%	保護者評価 AB89%	B	イベントやニュース、天気などタイムリーな話題を挙げて、言語拡充を図ることができた。 興味がある子だけで盛り上がりせず、みんなで共通理解しながら進めることを確認したい。
		日々の授業実践における生徒の基礎基本の定着と深い学びが展開できる授業力の向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 87.5%		B	対話の場面を意図的に設定することにより、生徒主体で思考を深め合うことができた。 授業研究（事前・事後）を通して、教師の指導・支援方法、環境設定、働き掛け等について考え、授業力をさらに高められるようにしたい。
ウ	読書活動を通じた言語力向上の基礎づくり	読書活動の推進による生活言語の拡充とコミュニケーション能力の向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB89%	A	様々な取組を行ったことで、本に親しみ、読書に興味をもつきっかけをつくることができた。（上の学部から下の学部への読み聞かせ、お薦め本の紹介等）また、定期的な浜松市立図書館からの本の貸し出しにより、本に幅広く触れる機会をつくることができた。
エ	校内における専門性の向上と継承	自らに必要な新たな知識や技能等が身についたと答える教職員 100%	職員評価 AB 97.1%		A	学部内で目的に応じたOJTのペアやグループを作り、普段から学び合える体制を整えた。自ら質問をすることが増えるなど、積極的に学ぶ職員が増えた。

個の実態を踏まえ、社会自立に向けて生活力を豊かにする自立活動を実践する。

ア	社会自立に向けて必要な力の習得や向上を図る自立活動の実践	日常生活の自立に向けた児童生徒個々の生活力の向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB 94%	A	個別の指導計画の作成や評価を通して個々の舎生に合わせた指導を行うことが生活力向上に繋がった。 行事を中心に舎生が主体的に取り組み、自分の役割、責任を果たすことができた。
		保護者と共に行う自立活動の充実ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%		A	保護者と一緒の自立活動の授業（学級自立・個別指導）を通して、個々の課題を共有し、学校だけでなく家庭の取り組みに繋げることができた。
		自己の将来や夢につながる指導の系統性と内容の充実ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 92%		A	個別の検討会や面談を通して、教員間や保護者と共通理解を図りながら進めることができた。 話し合える時間の確保に努め、計画的に進めていきたい。

		日々の生活や自立活動を通して、障害認識を深めるとともに、適切な進路を選択する力の向上につながったと答える教職員 100%	職員評価 AB100%		A	聴覚障害を有する教師や卒業生から体験談を聞くことで、将来の生活における自己の課題に気付くとともに、課題を解決しようという思いをもつことができた。 自己の障害認識を深めるとともに他者理解、他者を尊重する気持ち、姿勢を高めていきたい。
		補聴援助システムを効果的に活用できる技能の向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%	通級生保護者 AB90%	A	基本的な使い方を確認したり、毎月1回朝の打合せで啓発したりしたことで、意識付けを図ることができた。
		通級生が聴こえについての自己理解が深まったと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%		A	自己理解を進めたことで、在籍校でリーダーとして活躍することへの弾みがついた生徒がいた。 自己理解を促すために、さらに言葉の聞き取り合いや、グループでの触れ合いを増やしたい。
		進路指導・支援の内容について理解が向上し、進路指導に活かせたと答える教職員 100%	職員評価 100%		A	進路の手引きの初版を作成した。 全職員が進路指導の基本的な考え方を理解し(担当学部以外も)、手引き活用と共にキャリア教育を推進したい。 中学部では、職場見学、体験や高等部見学を通して、自分の進路について考えることができた。
イ	多様化する児童生徒の実態を的確に捉えた、学習指導や支援の充実と教育課程の見直し	幼児児童生徒の目標、支援内容、実態等について、保護者と教員、また、教員間で情報共有することができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 97.1%	保護者評価 AB 97%	A	個別の指導計画、個別の教育支援計画を活用して、保護者、教員間で情報を共有する意識が高まった。また、学年の枠を越えて、教員間で話し合い、情報共有することができた。
		情報機器の有効活用のために、使用のルールや、基本的な使用方法について指導することができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 96.9%		B	一人一台端末の使用のルールや使用方法等を設定し、授業において活用を少しずつ進めることができた。情報担当からアプリの使用について職員に紹介したり、掲示板で紹介したりして活用を推進した。 教員の意識向上、一人一台端末や電子黒板を有効活用した授業づくりの研修をすすめていく必要がある。

自己理解を深め、地域社会の中でよりよく生きる力を養うための共生教育を実践する。

ア	地域で生きるための力を養う共生教育の実践	地域の自然を活用できた。また、公共の場でのマナーの向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%		A	四ツ池公園周辺への散歩や学校周辺の買い物などを通し、自然に触れ、公共の場でのあいさつ、マナー等を学ぶ機会となった。友達と一緒に活動する中で、互いに関わり合う様子も見られるようになった。
		個々の自己理解力、対応力の向上ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%			交流では、自分からコミュニケーションを取りに行ったり、積極的に「聞こう」としたりする姿勢が見られた。子どもの視野が広がるいい機会となった。 意義はあるが、教員間の連絡方法や交流の付き添い方など簡素化できるとよい。
		地域における行事への参加や同年代とのかわりを主体的に深められる生徒の育成ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 75%			交流籍交流では、同年代の生徒との関わりを通して、自己理解を深めるとともに、卒業後の進路について考えることができた。 交流の意味づけを丁寧に行うことにより、よりよい共生教育の実践を目指したい。

聴覚障害に関する地域のセンター的機能と校内支援の充実を推進する。

ア	本校教育活動の積極的な発信	本校に通う幼児児童生徒の実態や教育活動についての理解啓発ができたと答える教職員 100%	職員評価 AB100%	見学会参加者 評価 A	A	学校見学会や小学校等での難聴理解授業を通して地域の理解が深まった。 コロナ禍で実施数や方法等制限していた学校見学をコロナ前並みに実施していきたい。
イ	地域におけるセンター的役割と校内支援体制の充実	校内及び地域の他機関との連携を図ることができたと答える教職員 100%	職員評価 AB 100%	乳幼児保護者 評価 A		相談室利用者等への在籍園・在籍校訪問を含め、地域の学校の要請に応じて支援を行った。 本校とのかかわりが薄い地域（遠隔地）への支援の充実を考えしていきたい。

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
令和 3年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部研修の視点を明確にした1人1授業研究や参観週間の実施（幼・小・中）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1授業研究や参観週間の機会を設けることにより、互いに学び合いながら、教員の授業力の向上を図ることができた。令和4年度は他学部の授業参観ができる研修を実施していきたい。</li> </ul>
令和 4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内でOJTの場を設定することにより、教職員の専門性の向上と継承を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部内で得意分野や経験を活かしたペアやミニグループをつくり、日常的に学び合える体制をつくった。主体的に学び専門性の向上を図ろうとする姿勢が多くみられた。</li> </ul>



## 5 教職員について

### (1) 異動状況

区分	本務職員							臨時・会計年度任用職員				合計
	教頭	教諭	養護教諭	寄宿舎指導員	主任	主事	小計	教諭	非常勤講師	非常勤労務職員	小計	
転出者	1	1	1	1	1		5					5
退職者		3		1			4	1	1	1	3	7
転入者	1	3	1	1		1	7					7
新任者				1			1	1		1	2	3
差引増減	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	1	2

### (2) 現員数

(令和5年4月1日現在)

区分	本務職員										任期付・臨時・会計年度任用職員						合計	
	校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	寄宿舎指導員	主任	主事	小計	教諭	寄宿舎指導員	乳幼児発達支援指導員	非常勤労務職員	スクールカウンセラー	校医等		小計
男				8			2			10			1	2		4	7	17
女	1	1	1	18	1	1	2	1	1	27	5	2		2	1	1	11	38
計	1	1	1	26	1	1	4	1	1	37	5	2	1	4	1	5	18	55

### (3) 健康管理について

健康診断（結核健診、生活習慣病健診等）の完全実施を図り、要再検査者の受診を徹底させるとともに、早期発見・早期治療に努めた。

要治療者については、必要に応じて健康管理医や衛生管理者が個別面談を行い、治療状況を把握し、健康管理に留意するよう助言した。

職員安全衛生委員会を定期的に設け、心身の健康問題の検討やその改善に努めた。

(4) 教職員の研修について

研修課主催研修

令和3年度			令和4年度		
達成目標	評価	実績(成果)課題	達成目標	評価	実績(成果)課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>研修内容について、学校全体で共通理解を図り、これまでの蓄積された指導法や教材を一人ひとりが授業で使用し、継承する。</li> <li>教職員の聴覚障害教育についての専門性や学習指導力の向上を図る。</li> </ul>	A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の研修の成果と令和3年度の方針について、全職員で確認し、研修の方向性や研修内容について共通理解を図った。</li> <li>講師招聘による研修会、関東圏内の学校との研究協議を実施した。</li> <li>1人1授業研究や学部研修の実施により、PDCAサイクルによる授業改善が図られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業・指導を通して幼児児童生徒の発達段階に応じた言語力の獲得と基礎学力の定着を図ることができる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業公開の機会を設定し、一人一人が個々の授業の目的を明確にして授業改善を図れた。</li> <li>学部をこえた同教科担当職員同士で授業を見合うことで教科指導力の向上に繋がった。</li> <li>来年度は学習会を設定し、授業づくりについて学ぶ場となるようにしていく。</li> </ul>

自立活動課主催研修

令和3年度			令和4年度		
達成目標	評価	実績(成果)課題	達成目標	評価	実績(成果)課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害教育の基礎基本の徹底、さらに専門性や学習指導力の向上を目指し、研究・研修活動の充実を図り、日々の実践に生かす。</li> <li>「きこえにくさ」とそれに伴う特性を理解し、対応力とコミュニケーション力をワンランクアップする。</li> </ul>	A  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の手話学習会の積み重ねにより、手話力の向上がみられた。</li> <li>定期的に講師を招聘した学習会や経験を積んだ職員による学習会を実施した。</li> <li>他者からの客観的なチェックとセルフチェックを行うことにより、授業や子どものかかわり方を見直す機会を作ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害教育における専門性を発揮した指導力を向上し、日々の実践に活かすことができる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動職員や外部の講師による学習会は新しい知識の習得や実践力向上に繋がった。</li> <li>経験や指導力等教員の実態に応じた学習会の在り方を検討、改善していきたい。</li> </ul>

6 防災対策について

年度	区分	月	訓練事項	実施内容
令和3年度	学校	4	緊急搜索訓練 (職員のみ)	・緊急搜索体制の搜索手順の確認 ・学校周辺の安全確認
		4	地震火災避難訓練	・避難経路の確認、消火器の位置確認 ・災害告知カードや誘導灯の意味の確認
		7	防災学習(火災、土砂災害)	・火災時における適切な行動 ・消火器訓練 ・学校立地環境の特徴 ・大雨等土砂災害を想定した避難方法
		8	引き渡し訓練	・「南海トラフ地震に関連する情報」が発令した時の避難、引き渡しまでの方法の確認
		1	火災避難訓練	・火災発生時刻や場所について予告なしの訓練。 適切な避難経路の判断と行動の確認
	寄宿舎	4	オリエンテーション	・地震・火災・不審者侵入時の対処法 ・集合場所の確認、点呼のやり方 ・非常ベル、パトライト、不審者用ブザーの体験 ・新舎監対象「非常時マニュアル」説明
		4	第1回避難訓練(火災)	・火災時の避難行動 ・集合場所や注意事項の確認
		5	第2回避難訓練(防犯)	・不審者侵入時の避難方法 ・集合場所や注意事項の確認
		6	第3回避難訓練(地震)	・地震発生時の避難行動 ・集合場所や注意事項の確認
		9	第4回避難訓練(火災)	・火災時の避難態度の確認 ・厨房から出火した場合の避難行動の確認 ・集合場所や注意事項の確認
		10	第5回避難訓練(地震)	・地震の避難態度の確認 ・集合場所や注意事項の確認
		1	第6回避難訓練 (地震火災)	・地震に伴う火災が発生した場合の避難行動の確認 ・集合場所や注意事項の確認
		令和4年度	学校	4
4	地震火災避難訓練			・避難経路の確認、消火器の位置確認 ・災害告知カードや誘導灯の意味の確認
7	防災学習 (火災、土砂災害)			・火災時における適切な行動 ・消火器訓練 ・学校立地環境の特徴 ・大雨等土砂災害を想定した避難方法
8	引き渡し訓練			・「南海トラフ地震に関連する情報」が発令した時の避難、引き渡しまでの方法の確認
1	火災避難訓練			・火災発生時刻や場所について予告なしの訓練。 適切な避難経路の判断と行動の確認
寄宿舎	4		オリエンテーション	・地震・火災・不審者侵入時の対処法 ・集合場所の確認、点呼のやり方 ・非常ベル、パトライト、不審者用ブザーの体験 ・新舎監対象「非常時マニュアル」説明
	4		第1回避難訓練(火災)	・火災時の避難行動 ・集合場所や注意事項の確認
	5		第2回避難訓練(防犯)	・不審者侵入時の避難方法

			・集合場所や注意事項の確認
	6	第3回避難訓練(地震)	・地震発生時の避難行動 ・集合場所や注意事項の確認
	6	臨時避難訓練 (土砂災害)	・大雨による土砂災害時の避難行動 ・注意事項の確認
	9	第4回避難訓練(火災)	・火災時の避難態度の確認 ・厨房から出火した場合の避難行動の確認 ・集合場所や注意事項の確認
	10	第5回避難訓練(地震)	・地震の避難態度の確認 ・集合場所や注意事項の確認
	11	防災学習(地震、火災)	
	1	第6回避難訓練 (地震火災)	・地震に伴う火災が発生した場合の避難行動の確認 ・集合場所や注意事項の確認

## 7 学校開放について

「静岡県立浜松聴覚特別支援学校の施設等の開放に関する細則」により、体育館、運動場を開放した。

施設名	利用種目	令和3年度		令和4年度		備考 電気料
		利用日数	利用者数	利用日数	利用者数	
体育館	空手	42	166	0	0	令和3年度 (4~3月分) 17,311円
	バレーボール	10	114	38	338	
	よさこい	20	247	24	292	
	エイサー	15	449	37	925	
運動場	サッカー	1	13	0	0	令和4年度 (4~2月分) 38,348円
	野球	16	280	13	248	
	運動会	1	400	1	420	

体育館利用にかかる経費として、電気代の実費を徴収

## 事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
学校教育に関すること	教育基本法（第 1 条、第 2 条） 学校教育法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 72 条、第 73 条、第 74 条、第 76 条、第 77 条、第 78 条、第 79 条、第 82 条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第 5 条） 学校給食法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 4 条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第 1 条、第 2 条、第 3 条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
学校の管理・運営に関する こと	学校教育法（第 137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第 33 条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第 21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 15 条、第 27 条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第 3 条、第 4 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律 （第 1 条、第 2 条、第 3 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒 援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨 励費補助金交付要綱 いじめ防止対策推進法

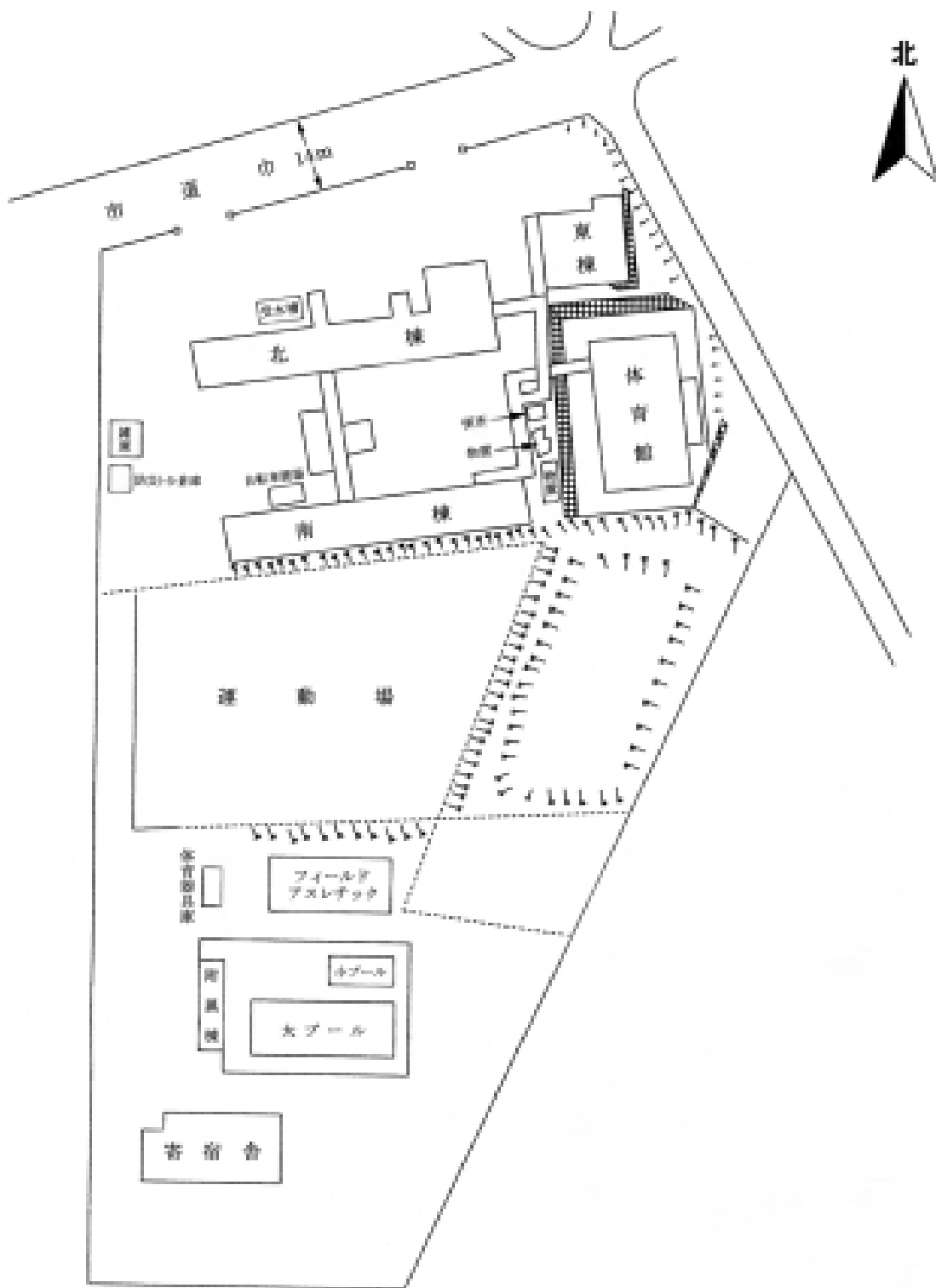
## 学校施設の概要

### 1 面積及び所有区分

(令和5年2月28日現在)

区 分	面 積 m <sup>2</sup>	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m <sup>2</sup>	国 有 m <sup>2</sup>	市町村有 m <sup>2</sup>	後援会有 m <sup>2</sup>	民 有 m <sup>2</sup>	
学 校 敷 地	20,491.77	20,491.77					
内 訳	校舎敷地	7,182.00	7,182.00				
	運動場敷地	3,725.00	3,725.00				
	その他の敷地	9,584.77	9,584.77				
校 舎	<u>建 1,444.64</u> 延 3,683.80	<u>建 1,444.64</u> 延 3,683.80					
体 育 館	<u>建 617.10</u> 延 617.10	<u>建 617.10</u> 延 617.10					
その他の建物	<u>建 313.31</u> 延 313.31	<u>建 313.31</u> 延 313.31					
寄 宿 舎	<u>建 220.33</u> 延 424.75	<u>建 220.33</u> 延 424.75					
プ - ル	1箇所	1箇所					20m × 8m 8m × 4m

2 配置・規模等  
 (1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	20,491.77㎡	3,683.80㎡	3,725.00㎡
県平均	18,817.67㎡	6,361.36㎡	5,247.28㎡

## 在 籍 生 徒 調

(令和5年2月28日現在)

学年	学部別 区分		幼稚部			小学部			中学部			合計		
			男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	合計
1年 (3歳)	入 学 者		2	0	2	2	0	2	3	3	6	7	3	10
	増 加 減 少		-----											
	現 在		2	0	2	2	0	2	3	3	6	7	3	10
2年 (4歳)	入 学 者		4	0	4	1	1	2	2	3	5	7	4	11
	増 加 減 少		-----											
	2年(4歳)時当初		4	0	4	1	1	2	2	3	5	7	4	11
	増 加 減 少		1		1							1		1
	現 在		4	0	4	1	1	2	2	3	5	7	4	11
3年 (5歳)	入 学 者		1	0	1	0	2	2	1	5	6	2	7	9
	増 加 減 少		-----											
	2年(4歳)時当初		1	0	1	0	2	2	1	5	6	2	7	9
	増 加 減 少		-----											
	3年(5歳)時当初		1	0	1	0	2	2	1	5	6	2	7	9
増 加 減 少		-----												
現 在		1	0	1	0	2	2	1	5	6	2	7	9	
4年	入 学 者					4	1	5				4	1	5
	増 加 減 少		-----											
	2年時当初					4	1	5				4	1	5
	増 加 減 少		-----											
	3年時当初					4	1	5				4	1	5
	増 加 減 少		-----											
	4年時当初					4	1	5				4	1	5
増 加 減 少		-----												
現 在					4	1	5				4	1	5	
5年	入 学 者					1	2	3				1	2	3
	増 加 減 少		-----											
	2年時当初					1	2	3				1	2	3
	増 加 減 少		-----											
	3年時当初					1	2	3				1	2	3
	増 加 減 少		-----											
	4年時当初					1	2	3				1	2	3
増 加 減 少		-----												
5年時当初					1	2	3				1	2	3	
増 加 減 少		-----												
現 在					1	2	3				1	2	3	
6年	入 学 者					2	1	3				2	1	3
	増 加 減 少		-----											
	2年時当初					2	1	3				2	1	3
	増 加 減 少		-----											
	3年時当初					3	1	4				3	1	4
	増 加 減 少		-----											
	4年時当初					4	1	5				4	1	5
	増 加 減 少		-----											
	5年時当初					4	1	5				4	1	5
増 加 減 少		-----												
6年時当初					4	1	5				4	1	5	
増 加 減 少		-----												
現 在					4	1	5				4	1	5	
合 計			7	0	7	12	7	19	6	11	17	25	18	43



## 入学志願者及び入学者数調

区 分	元年度			2年度			3年度			4年度			5年度			
学 部 別	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	
生徒定員(A)																
募集者数(B)																
志願者数	男															
	女															
	計(C)															
受検者数	男															
	女															
	計(D)															
合格者数	男															
	女															
	計(E)															
志願倍率(C)/(B)																
受検倍率(D)/(B)																
入学者数	男	1	4	1	2	0	1	4	1	2	2	2	3	2	1	4
	女	1	1	0	0	2	5	0	1	3	0	0	3	2	0	1
	計(F)	2	5	1	2	2	6	4	2	5	2	2	6	4	1	5
充足率(F)/(A)																

### 卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制	1			1
特別支援学校高等部		5			5
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上 記 以 外					
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)		6	-	-	6

(再掲) 「上記以外」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設 (うち就労系支援事業利用者)					
医療機関					
計		0	-	-	0

## 生徒の状況

### 1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和5年2月28日現在) (単位:人)

市町名	浜松市	磐田市	掛川市	袋井市	湖西市	森町	菊川市	合計
生徒数	27	4	3	3	2	2	2	43
構成比%	62.8%	9.3%	6.9%	6.9%	4.7%	4.7%	4.7%	100%

(2) 通学方法 (令和5年2月28日現在) (単位:人)

区分	自家用車	寄宿舍	徒歩	車・バス	バス	車・バス・電車	合計
生徒数	31	5	3	2	1	1	43
構成比%	72.1%	11.6%	7.0%	4.7%	2.3%	2.3%	100%

### 2 部(クラブ)の加入状況 (令和5年2月28日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計	
部(クラブ)数		1	1	/	2	
男子	1年	3			3	
	2年	2			2	
	3年	1			1	
	計(A)	6			6	
	構成比	100%	0%	0%	100%	
女子	1年	3			3	
	2年	2	1		3	
	3年	4		1	5	
	計(B)	9	1	1	11	
	構成比	81.8%	9.1%	9.1%	100%	
合計 (A+B)		15	1	1	17	
合計		構成比	88.2%	5.9%	5.9%	100%

### 3 障害別児童生徒数

(令和5年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合 計	学級数
幼稚園部	単一障害		2	4	1			7	3
	-								
	-								
	合計		2	4	1			7	3
小学部	単一障害	2	1	2	2	3	3	13	6
	重複障害		1		3		2	6	2
	肢体重複								
	合計	2	2	2	5	3	5	19	8
中学部	単一障害	5	5	5				15	3
	重複障害	1		1				2	1
	肢体重複								
	合計	6	5	6				17	4

#### 4 起因疾患別児童生徒数

(令和5年2月28日現在)(単位:人)

区 分	不明	サイトメガロ ウイルス	その他	計
幼稚園部	6	1		7
小学部	18	1		19
中学部	17			17
計	41	2	0	43

## 現金出納調

「令和4年度 該当なし」

## 預金調

(令和5年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘要
静岡銀行 住吉支店	無利息型 普通預金	0021790	浜松聴覚特別支援学校 資金前渡者 藤田延江	0円	給与・賞与・ 負担金
静岡銀行 住吉支店	無利息型 普通預金	0530856	(自振口) 浜松聴覚特別支援学校 資金前渡者 藤田延江	0円	電気料・水道 代・電話料・ 社会保険料等
静岡銀行 住吉支店	無利息型 普通預金	0126423	浜松聴覚特別支援学校 奨励費 代理受領者 藤田延江	0円	就学奨励費
残高合計				0円	

## 郵 券 等 受 払 調

(令和5年2月28日現在)  
(単位：枚、円)

区分	種類	3年度						4年度						差引現在高	摘要	
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出				
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額			枚数
郵券	1円券	22	22	0	0	0	0	22	22	0	0	1	1	21	21	通信用
	10円券	4	40	70	700	26	260	48	480	0	0	13	130	35	350	通信用
	84円券	4	336	50	4,200	37	3,108	17	1,428	30	2,520	21	1,764	26	2,184	通信用
	120円券	2	240	40	4,800	14	1,680	28	3,360	0	0	2	240	26	3,120	通信用
	210円券	9	1,890	20	4,200	11	2,310	18	3,780	0	0	16	3,360	2	420	通信用
	往復葉書 (100円)	1	100	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	通信用
	往復葉書 (124円)	6	744	0	0	0	0	6	744	0	0	0	0	6	744	通信用
計		/	3,372	/	13,900	/	7,358	/	9,914	/	2,520	/	5,495	/	6,939	

## 材 料 品 受 払 調

( 令和 5 年 2 月 28 日 現在 )

区分 品名	4 年 度								摘 要
	繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	
精米	0	0	24	71,245	24	71,245	0	0	
精麦	0	0	6	1,800	6	1,800	0	0	
計	0	0	30	73,045	30	73,045	0	0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					2年度	3年度	左のうち2年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	373,109	237,600	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	14,079,728	13,527,096	
計					14,452,837	13,764,696	0
(14)工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0	
計					0	0	0
(16)公有財産購入費					0	0	
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,502,050	57,750	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	108,790	0	
計					1,610,840	57,750	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	3,630	0	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	33,800	34,000	
計					37,430	34,000	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0	
計					0	0	0

様式第10号 - 3

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年2月28日現在)

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、3年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	337,381	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	167,200	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	11,231,330	0
計					11,735,911	0
(14)工事請負費					0	0
計					0	0
(16)公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	590,480	0
計					590,480	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	48,000	0
計					48,000	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0



委託料に関する調

(令和3年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 給食調理(配膳)業務委託	(株)ミカサ	円 46,727,967	円 40,227,000	円 0	円 40,227,000	一般	自 2. 8.11 至 5. 7.31	円 (8,939,436) 3. 5.31 1,117,413 3. 6.30 1,117,413 3. 7.30 1,117,413 3. 8.31 1,117,413 3. 9.30 1,117,413 3.10.29 1,117,413 3.11.30 1,117,413 3.12.27 1,117,413 4. 1.31 1,117,413 4. 2.28 1,117,413 4. 3.31 1,117,413 4. 4.28 1,117,413 小計 13,408,956	学校給食及び寄宿舎舎食の調理配膳業務	一般 R2長期	
2	寄宿舎警備業務委託	セコム(株)	660,000	605,000	0	605,000	随契	自 2.8. 1 至 6.9.30	円 (96,800) 3. 5.31 12,100 3. 6.30 12,100 3. 7.30 12,100 3. 8.31 12,100 3. 9.30 12,100 3.10.29 12,100 3.11.30 12,100 3.12.27 12,100 4. 1.31 12,100 4. 2.28 12,100 4. 3.31 12,100 4. 4.28 12,100 小計 145,200	寄宿舎の警備業務	随契1号(少額) R2長期	
3	不燃物収集運搬処理業務委託	(株)三共	41,140	41,140	0	41,140	随契	自 3.4.19 至 4.3.31	3.10.21 18,700 4. 4.21 22,440 小計 41,140	学校給食の不燃物収集運搬処理	随契1号(少額)	
4	産業廃棄物収集運搬及び処分業務委託	東名興産(株)	77,000	77,000	0	77,000	随契	自 3. 7.30 至 4. 3.31	3.10.19 38,500 4. 4.11 38,500 小計 77,000	給食棟・寄宿舎のグリストラップの清掃、汚泥の収集運搬処分	随契1号(少額)	
5	産業廃棄物収集運搬及び処分業務委託	(株)リサイクルクリーン	92,400	92,400	0	92,400	随契	自 3.9.13 至 4.3.31	4. 1.18 46,200 4. 4.7 46,200 小計 92,400	学校で排出される産業廃棄物の収集運搬処分	随契1号(少額)	
	事務関係計	5件							13,764,696			
	合計	5件							13,764,696			
参考1	自家用電気工作物安全管理業務委託	遠鉄アシスト(株)		2,745,160	34,320	2,779,480		自 3. 4. 1 至 4. 3.31			自家用電気工作物安全管理	浜松城北工業高校
2	可燃物収集運搬処分業務委託	環境保全(株)		運搬料 1校1回あたり 462円 処分料 1kgあたり 13.2円	0	運搬料 1校1回あたり 462円 処分料 1kgあたり 13.2円		自 3. 4. 6 至 4. 3.31			一般廃棄物(可燃物残菜)の収集運搬処理業務	浜松大平台高校 単価契約
3	消防用設備等保守点検業務委託	静岡県消防設備保守点検業協同組合		12,100,000	-146,222	11,953,778		自 3. 4. 1 至 4. 3.31			消防用設備等保守点検業務	浜松商業高校
4	プール浄化装置保守点検業務委託	清化工業(株)		998,800	0	998,800		自 3. 4. 9 至 3.11.30			プール浄化装置保守点検業務	浜松東高校
5	防鼠防虫業務委託	(株)帝装化成浜松営業所		237,600	0	237,600		自 3. 4. 12 至 4. 3.31			害虫の発生状況点検、調査、防除	浜松特別支援学校
6	警備業務委託	セコム(株)		10,164,000	0	10,164,000		自 1.10. 1 至 6. 9.30			夜間休日機械警備業務	浜松工業高校
7	浜松北地区県立学校定期点検業務委託	(有)山口一級建築士事務所		3,080,000	0	3,080,000		自 3. 9.15 至 4. 1.25			建築基準法第12条点検業務	浜北西高校
	計	7件										

委託料に関する調

(令和4年度)  
(令和5年2月28日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要	
				当初額	変更増減額	計							
1	(事務関係) 給食調理(配膳)業務委託	(株)ミカサ	46,727,967	40,227,000	0	40,227,000	一般	自 2. 8. 11 至 5. 7. 31	4.5.31 1,117,413 4.6.30 1,117,413 4.7.29 1,117,413 4.8.31 1,117,413 4.9.30 1,117,413 4.10.31 1,117,413 4.11.30 1,117,413 4.12.27 1,117,413 5.1.31 1,117,413 5.2.28 1,117,413 小計 11,174,130	(22,348,392)	学校給食及び寄宿舎舎食の調理配膳業務	一般 R2長期	
2	寄宿舎警備業務委託	セコム(株)	660,000	605,000	0	605,000	随契	自 2.8. 1 至 6.9.30	4.5.31 12,100 4.6.30 12,100 4.7.29 12,100 4.8.31 12,100 4.9.30 12,100 4.10.31 12,100 4.11.30 12,100 4.12.27 12,100 5.1.31 12,100 5.2.28 12,100 小計 121,000	(242,000)	寄宿舎の警備業務	随契1号(少額) R2長期	
3	不燃物収集運搬処理業務委託	(株)三共	41,140	41,140	0	41,140	随契	自 4.4.20 至 5.3.31	4.10.20 18,700 小計 18,700	18,700	学校給食の不燃物収集運搬処理	随契1号(少額)	
4	産業廃棄物収集運搬及び処分業務委託	東名興産(株)	77,000	77,000	0	77,000	随契	自 4. 7. 1 至 5. 3. 31	4.11.24 38,500 小計 38,500	38,500	給食棟・寄宿舎のグリス・トラップの清掃、汚泥の収集運搬処分	随契1号(少額)	
5	産業廃棄物収集運搬及び処分業務委託	(株)リサイクルクリーン	92,400	92,400	0	92,400	随契	自 4. 6. 1 至 5. 3. 31	4.12.21 46,200 小計 46,200	46,200	学校で排出される産業廃棄物の収集運搬処分	随契1号(少額)	
	事務関係計	5件								11,398,530			
6	アスベスト及びPCB他含有調査業務委託	ユーロフィン日本総研(株)	418,000	346,500	-9,119	337,381	随契	自 4.10.13 至 5. 1. 31	5. 2. 17 337,381 小計 337,381	337,381	工事に係るアスベスト及びPCB他含有調査	随契1号(少額)	
	工事関係計	1件								337,381			
	合計	6件								11,735,911			
参考1	自家用電気工作物保安管理業務委託	遠鉄アリスト(株)		4,359,960	0	4,359,960		自 4. 4. 1 至 5. 3. 31				自家用電気工作物保安管理	浜松城北工業高校
2	可燃物収集運搬処分業務委託	環境保全(株)		運搬料1校1回あたり550円 処分料1kgあたり13.2円	0	運搬料1校1回あたり550円 処分料1kgあたり13.2円		自 4. 4. 8 至 5. 3. 31				一般廃棄物(可燃物残菜)の収集運搬処理業務	浜松大平台高校 単価契約
3	消防用設備等保守点検業務委託	静岡県消防設備保守点検業協同組合		12,320,000	0	12,320,000		自 4. 4. 1 至 5. 3. 31				消防用設備等保守点検業務	浜松商業高校
4	プール浄化装置保守点検業務委託	清化工業(株)		998,800	0	998,800		自 4. 4. 8 至 4.11.30				プール浄化装置保守点検業務	浜松東高校
5	防鼠防虫業務委託	(株)帝装化成浜松営業所		331,100	0	331,100		自 4. 4. 15 至 5. 3. 31				害虫の発生状況点検、調査、防除	浜松特別支援学校
6	警備業務委託	セコム(株)		10,164,000	0	10,164,000		自 1.10. 1 至 6. 9. 30				夜間休日機械警備業務	浜松工業高校
7	浜松北地区県立学校定期点検業務委託	(有)山口一級建築士事務所		2,200,000	0	2,200,000		自 4.11. 1 至 5. 2. 28				建築基準法第12条点検業務	浜北西高校
	計	7件											

## 負担金支出調

(令和3年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担 根拠	事業内容	負担 金額	支出年月日
1	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	会則	全国聾学校教頭会会費	4,000	3.7.2
2	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約	全国聾学校長会会費	13,000	3.8.23
3	関東地区聾学校教頭会会費	関東地区聾学校教頭会	会則	関東地区聾学校教頭会会費	2,000	3.9.13
4	関東地区聾学校長会会費	関東地区聾学校長会	規約	関東地区聾学校長会会費	5,000	3.12.21
5	子どもの体験型防犯講座負担金	くらし・環境部県民生活局	通知	子どもの体験型防犯講座	10,000	4.3.11
計		5件			34,000	

## 負担金支出調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担 根拠	事業内容	負担 金額	支出年月日
1	浜松市かわな野外活動センター利用学校指導者事前研修会参加費	浜松市かわな野外活動センター	実施要項	浜松市かわな野外活動センター利用学校指導者事前研修会参加費	800	4.4.15
2	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	開催要項	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	13,200	4.5.20
3	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	会則	全国聾学校教頭会会費	4,000	4.6.30
4	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約	全国聾学校長会会費	18,000	4.8.19
5	関東地区聾学校教頭会会費	関東地区聾学校教頭会	会則	関東地区聾学校教頭会会費	2,000	4.9.9
6	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会参加費	東海地区高等学校教頭・副校長会	開催要項	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会参加費	2,000	4.10.14
7	全国聾学校長会研究協議会(愛知大会)参加費	全国聾学校長会	開催要項	全国聾学校長会研究協議会(愛知大会)参加費	3,000	4.11.4
8	関東地区聾学校長会会費	関東地区聾学校長会	規約	関東地区聾学校長会会費	5,000	4.12.21
計		8件			48,000	

## 建 築

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額	
					当初額	変 更 増減額
				円	円	円
1	教育管理費	令和2年度[第32-Z 2459-01号]浜松聴 覚特別支援学校トイ レ洋式化他工事  〔内、浜松聴覚分〕	浜松市中区 西伊場町	28,424,000	26,950,000	3,476,000
				(9,427,000)	(8,932,000)	(462,000)
		合計	1件	28,424,000	26,950,000	3,476,000

## 建 築

整理番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額	
					当初額	変 更 増減額
1	教育管理費	令和4年度 静岡県立浜松聴覚 特別支援学校電話 設備更新工事	浜松市中区	1,672,000	1,507,000	0
2	教育管理費	令和4年度 静岡県立浜松聴覚 特別支援学校プー ル濾過装置ポン プモーター更新工事	浜松市中区	385,000	374,000	0
3	教育管理費	令和4年度 静岡県立浜松聴覚 特別支援学校高圧 受電盤電流計他工 事	浜松市中区	1,386,000	1,386,000	-1,111,000
4	教育管理費	令和4年度 静岡県立浜松聴覚 特別支援学校寄宿 舎雨水排水改修工 事	浜松市中区	433,400	433,400	0
5	教育管理費	令和4年度 静岡県立浜松聴覚 特別支援学校東棟 調理室手洗器改修 他工事	浜松市中区	638,000	607,046	0
		合計	5件	4,514,400	4,307,446	-1,111,000

# 工 事 調

(令和3年度)

計	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘 要
円				円			
#REF!  (9,394,000)	一般	愛管株式会社	着手 R3.3.16  完成 R3.9.13	30,426,000	新型コロナウイルス感染症対策のため、トイレの洋式化  衛生陶器洋式化12か所	-	本庁経理分 交通基盤部設備課 令和2年度債務
#REF!				30,426,000			

# 工 事 調

(令和4年度)  
(令和5年2月28日現在)

計	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘 要
#REF!	随契	電通システム株式会社	着手 R4.9.22  完成 R5.3.3	-	電話設備更新	-	随契1号(少額) 令達日 R4.8.10
#REF!	随契	清化工業株式会社	着手 R4.12.7  完成 R5.2.28	-	プール濾過装置ポンプモーター更新	-	随契1号(少額) 令達日 R4.11.25
#REF!	随契	栄電気工業株式会社	着手 R4.12.12  完成 R5.3.24	-	高圧受電盤電流計他改修	-	随契1号(少額) 令達日 R4.11.25
#REF!	随契	フジテック株式会社	着手 R4.12.27  完成 R5.3.10	-	雨水管設置、既設コンクリート柵配管接続	-	随契1号(少額) 令達日 R4.12.12
#REF!	随契	マルゼン厨機株式会社	着手 R5.2.6  完成 R5.3.28	-	東棟調理室手洗器改修、東棟職員トイレ内手洗器設置	-	随契1号(少額) 令達日 R5.1.24
#REF!				0			

公 有 財 産 調

( 令 和 3 年 度 )

区 分	令和3年3月31日現在		増		減		令和4年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,881,327		千円 234		千円 8,086		千円 1,873,475	
土 地	m <sup>2</sup> 20,491.77	1,753,510					m <sup>2</sup> 20,491.77	1,753,510	
立木竹	本 232	956					本 232	956	
建 物	m <sup>2</sup> <u>2,595.38</u> 5,038.96	31,384				4,631	m <sup>2</sup> <u>2,595.38</u> 5,038.96	26,753	
工作物	個 129	95,477	個 1	234		3,455	個 130	92,256	
普通財産		0						0	
工作物	個 0	0	個		個		個 0	0	
公有財産に準ずるもの		161						161	
電話加入権	件 5	161					件 5	161	

令和4年度中増減なし

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和4年度)  
(令和5年2月28日現在)

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額						
				2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
長期継続 契約	給食調理(配膳) 業務委託	給食調理(配膳業務) (契約日) 令和2年8月11日	40,227,000	円 8,939,436	円 13,408,956	円 13,408,956	円 4,469,652	円	円
長期継続 契約	寄宿舎警備業務 委託	寄宿舎警備業務 (契約日) 令和2年7月8日	605,000	円 96,800	円 145,200	円 145,200	円 145,200	円 72,600	円
長期継続 契約	モノク口複合機 賃借及び使用契約	モノク口複合機 賃借及び使用 (契約日) 令和3年4月1日	23,546,160	円	円 4,709,232	円 4,709,232	円 4,709,232	円 4,709,232	円 4,709,232



## 行政財産貸付・使用許可調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市中区 幸三丁目 25番1号	学 校 敷 地	学 校 敷 地	電柱 10本 支線 9本	円 1,500	円 28,500	自30.4. 1 至 5.3.31	中 部 電 力 パワ－グリッド 株 式 会 社 静 岡 支 社 浜松営業所長	電力供給のため
2	土地	学校敷地	浜松市中区 幸三丁目 25番1号	学 校 敷 地	道 路 敷 地	217.30㎡		免除	自 3.4. 1 至 8.3.31	浜松市長	道路敷として 使用のため
合 計								28,500			



## 主 要 備 品 調

(令和5年2月28日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利 用 状 況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	10 - 99	その他の教育用器具	フィールドアスレチック TWP-26 6	体力作り等 毎日使用	10 . 3	円 3,935,400
2	1 - 13	その他の厨房器具	真空冷却機 CMJ-20QE	給食用 毎日使用	26 . 2	3,218,250
3	4 - 2	機能検査機器	補聴器特性測定装置 FONIX7000	補聴器性能管理調整 毎日使用	19 . 3	2,822,505
4	4 - 2	機能検査機器	インピーダンス オージオメータ 901P	中耳伝音機能検査 常時使用	11 . 4	1,900,000
5	2 - 1	パーソナルコンピュ ータ(一式)	パソコン教室用パソコン 等MT7900	情報の授業用 毎日使用	29 . 1	1,836,000
6	1 - 13	食品食器洗浄機	食器洗浄機 SD-113GSH	給食用 毎日使用	19 . 3	997,500
7	4 - 2	機能検査機器	オージオメータ AA-76型	児童・生徒聴力測定 毎日使用	14 . 8	997,500
8	1 - 13	加熱器具	スチームコンベクション オープン CM61	給食用 毎日使用	25 . 3	942,900
9	10 - 8	その他の芸術用器具	陶芸窯 CEM-13	図工・美術教材用 学期1～2回使用	7 . 3	930,000
10	4 - 1	耳鼻咽喉科用機器	集団補聴器 リオン GH-05	体育授業・学校行事用 常時使用	4 . 2	927,000
11	4 - 2	機能検査機器	オージオメータ AA-76	幼児聴力測定 毎日使用	11 . 4	895,000
12	1 - 13	調理器具	ガス回転釜 GHSL-28	給食用 毎日使用	25 . 8	882,000
13	2 - 2	送受信機	無線LANアンテナ JRC NTG-2	情報の管理・送受信 常時使用	25 . 3	882,000
14	1 - 13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機 MCSK-15	給食用 毎日使用	11 . 3	807,000
15	1 - 13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機 MW-30	給食用 毎日使用	4 . 10	790,000
16	2 - 2	テレビ	50型テレビシステム EPJ-50	授業・職員研修用 週1～2回使用	11 . 2	761,250
17	6 - 9	木工用機械	鉋盤 GN-40	技術科教材用 学期1～2回使用	57 . 8	755,000
18	4 - 1	耳鼻咽喉科用機器	耳鼻咽喉科用機器 集団補聴器 GH-41	体育授業・学校行事用 常時使用	16 . 3	724,500
19	4 - 1	耳鼻咽喉科用機器	集団補聴器 リオン GH-41D	体育授業・学校行事用 常時使用	15 . 3	724,500
20	1 - 13	食品食器洗浄機	食器消毒保管庫	給食用 毎日使用	9 . 3	654,050

# 職 員 調

(令和5年4月1日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	藤田 延江			年月	
2	教頭	春田美賀子			年月	
3	事務長	中村 明江	事務総括		年月	
4	教諭	松本 あけみ	幼稚部主事		年月	
5	教諭	夏目 裕	小学部主事		年月	
6	教諭	安井 大輔	中学部主事		年月	
7	教諭	徳丸久身子	小学部		年月	
8	教諭	鈴木 健示	中学部		年月	
9	教諭	山内 紀子	小学部		年月	
10	教諭	名波 綾子	中学部		年月	
11	教諭	浜田 孝枝	中学部		年月	
12	教諭	竹内 明日香	中学部		年月	
13	教諭	渡邊 恭子	小学部		年月	
14	教諭	鈴木理紗子	小学部		年月	
15	教諭	鈴木一呂代	中学部		年月	
16	教諭	山田 麻貴	幼稚部		年月	
17	教諭	久保田 顕子	中学部		年月	
18	教諭	手塚 誠人	幼稚部		年月	
19	教諭	渡邊 絵里	小学部		年月	
20	教諭	鈴木 妙子	幼稚部		年月	
21	教諭	望月 千裕	小学部		年月	
22	教諭	森下 和穂			年月	
23	教諭	田口 智也	中学部		年月	
24	教諭	高部 亮	幼稚部		年月	
25	教諭	間 淵 史子	中学部		年月	
26	教諭	藏元 温子	小学部		年月	
27	教諭	片山 莉奈	幼稚部		年月	
28	教諭	種本 有希	小学部		年月	
29	教諭	江田悠太郎	小学部		年月	
30	養護教諭	藁科 彩	中学部		年月	
31	栄養教諭	川崎 真那			年月	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
32	寄宿舎 指導員	飯田 優子	寮務		年月	
33	寄宿舎 指導員	入澤 みき	寮務		年月	
34	寄宿舎 指導員	鈴置 洋平	寮務		年月	
35	寄宿舎 指導員	上村 威	寮務		年月	
36	主任	上田 陽子	会計庶務		年月	
37	主事	森田 紗永	管財会計		年月	
(平均年数)					年月	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭	青木 美奈	小学部		年月	
2	教諭	尾崎 浩子	幼稚部		年月	
3	教諭	岡田 望	小学部		年月	
4	教諭	田林麻里子	小学部		年月	
5	教諭	山崎 莉央	小学部		年月	
6	寄宿舎 指導員	伊藤貴代美	寮務		年月	
7	寄宿舎 指導員	岩井 翔子	寮務		年月	
8	乳幼児発達 支援指導員	種茂 彰一	乳幼児 発達支援		年月	
9	非常勤 職務員	赤塚 進	用務		年月	
10	非常勤 職務員	高柳 智行	用務		年月	
11	非常勤 職務員	池田 恵子	コロナ スタッフ		年月	
12	非常勤 職務員	鈴木 憲子	コロナ スタッフ		年月	
13	スクールカ ウンセラー	小林みつ子			年月	
14	校医・健康 管理	松下 文昭	内科		年月	
15	校医	林 賢	歯科		年月	
16	校医	鈴木 悟	耳鼻科		年月	
17	校医	浅井 竜彦	眼科		年月	
18	薬剤師	西島 由仁	衛生管理		年月	

## 職員の年齢調

(令和5年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	6	
30歳以上40歳未満	10	
40歳以上50歳未満	10	
50歳以上56歳未満	5	
56歳以上61歳未満	5	
61歳以上	1	再任用1人
計	37	平均年齢41.7歳

## 健康管理

### 1 令和4年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 37 人 職員数 38 人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由  
育休中

### 2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行っておりが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0人
C 2		要経過観察	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	12人(12人)
D 2		要経過観察	9人(9人)
D 3		医 療 不 要	14人(14人)
区 分 者 計			35人(35人)
未 区 分 者 数			2人
合 計			37人(37人)

(1) 管理区分A～C2該当者  
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

( )